

## 『COVID-19: 基本に立ち返る』に関するレポート

作成者：Ritter Diaz、ビジネスコンサルタント

東京、2021年8月30日

昨年、私は COVID-19 について『経済、社会活動の再開』（2020年5月）、『感染者数ではなく、脆弱性に焦点を合わせる』（2020年7月）と題した2つの意見記事を書きました。

その中で私は、COVID-19 の蔓延により、世界中の政府が過剰な制限措置をとっていることへの懸念を表明するとともに、新規感染者数だけに焦点をあてた報道の問題性や、持病を持つ人にこそ特別な注意を払う必要があることを述べました。

コロナウイルスが世界保健機関（WHO）によってパンデミック（世界的流行）と宣言されてから1年5カ月が過ぎようとしています。その間、メディア、政府、国際機関、医療専門家や医療機関、そして世界中の人々は COVID-19 に関する多くの知識と経験を蓄積してきました。

実際、1年5ヶ月という期間は、パンデミックの実態を把握し、平常時の経済的・社会的な生活を取り戻すために我々の頭を切り替えるには、妥当な期間であると思われます。

メディア、政府、医療専門家、医療機関が COVID-19 に対する固定観念から抜け出せば、その他の深刻な病気に苦しむ何百万人もの人々の適切な治療を受けられる機会や権利が回復すると考えられます。事実、毎年、世界中で心臓病や脳卒中で亡くなる人の数は、過去1年半の間に COVID-19 が原因で亡くなった人の数（現時点で約440万人）に比べて多いのです。2019年だけ見ても、WHO は虚血性心疾患による死亡者数が800万人を超えたと報告していますが、この病気に対して緊急事態宣言が発動されることはありません。また、500万人以上の子どもを含む、年間約900万人もの人々が飢餓によって命を落としています。こちらも政府やメディア、医療専門家や機関が連日話題に上げたり、非常事態であることを宣言することはないのです。

したがって、COVID-19 がすでに風土病であるという事実を、そろそろ私たちは受け入れなければならないタイミングにきていると感じています。実際、この新型コロナウイルスは、インフルエンザや風邪と同じ呼吸器系の感染症の一つであり、今後は季節毎に登場することが予想されます。そのため、免疫力が低下している人は重症化や死亡するリスクを減らすために、毎年ワクチンを接種しなければならないのです。それと同時に、今回のデルタ株のように、ウイルスが突然変異してワクチンが効かなくなることも忘れてはなりません。

実際、COVID-19 のデルタ株では、ワクチンを接種したにもかかわらず再感染したケースが多いことから、各国政府は既存のワクチンの効果を高めるために 3 回目のワクチン接種の必要性を評価または推奨しています。事実、世界で最もワクチン接種率の高い国の一つであるイスラエルでも COVID-19 の再感染が発生しています。米国政府は感染拡大を受け 9 月までに 3 回目のワクチン接種を開始する予定であると発表していますが、これについて WHO は、世界中で何十億もの人々がまだ 1 回目の接種すら受けられていない状況で、3 回目のワクチン接種を実施するのは時期尚早であると批判しています。

私は科学を信じています。科学はあらゆる現象を研究、測定、試験、複製、検証して、この世界に存在する自然の摂理を説明するための原理や法則を考える手段を私たちに教えてくれます。しかし、医学を含む科学はドグマではなく、どんな現象についても、時間の経過とともに新しい情報によって変化する可能性があることを忘れてはいけません。また、医療専門家も人間ですから、判断を誤ることもあれば、金や政治に影響されることもあります。医療機関も様々な利害関係の間で揺れ動き、企業からの医学研究寄付を取り付ける為に妥協案を探すこともあるでしょう。

今回のパンデミックでは、COVID-19 に関して、WHO をはじめ、CDC（米国疾病予防管理センター）、NHI（米国国立衛生研究所）に至るまで、医療専門家や医療機関が発表した見解に矛盾を感じたことは一度や二度ではありません。

2020 年 1 月初旬以降、中国当局はこのウイルスを新型コロナウイルスと認定していたにも関わらず、この新たに発見されたウイルスは人から人へ感染する病気なのか、病気ではない人もマスクをしなければならないのか、という的外れな議論がなされた事を覚えている方も多いと思います。中国当局の認定の動きは、このウイルスが SARS、MERS、風邪、インフルエンザと同じ属性であることを意味し、これらはすべて似たような症状を持つ感染症・伝染病であることから、感染予防のためにマスクが必要であることを明確に示していました。また最近では、アメリカでワクチンを接種した人が再感染した場合、マスクを着用すべきか否かについて、医療専門家によって異なる見解が出されたために、人々が混乱の渦に巻き込まれたことは記憶に新しい事象です。

医療専門家や製薬会社は、COVID-19 に対する集団免疫を獲得するためのワクチンの開発に躍起になっていますが、同時に、それらのワクチンが効果を発揮しないウイルスの変異株が常に出現する可能性があることも理解しています。実際、WHO は感染力のレベルに応じて、いくつかの懸念、注意すべき変異株を公表しています。事実、デルタ株はこれまでのところ最も感染力が強く、ワクチンを接種した人でも再感染する可能性があり、集団免疫の獲得が困難になっています。

昨年 5 月頃、WHO の健康危機プログラムのエグゼクティブ・ディレクターであるマイク・ライアン博士が、「コロナウイルスはなくなる可能性が高い。この新たなウイルスは、毎年

世界中で犠牲者を出しているウイルスのリストに加わるだけかもしれない。」とコメントしていたことを私は鮮明に覚えています。この言葉は、COVID-19 とは何かを簡潔に述べたものであり、このパンデミックを乗り越えるために、私達が今後どの様な考え方を持たなければならないのか、このウイルスを正しく理解するきっかけとなるものだと思います。

多くの人が、緊急事態宣言などの強硬措置はもはや受け入れ難い政策であることに同意してください。世界中の人々が疲弊し、政府の命令には従いたくないとさえ考えています。西村康稔コロナウイルス対策担当大臣は、「国民はコロナウイルスに慣れてきており、自粛することに疲れている」と、日本での厳しい制限措置の実施に関する質問に答えています。

このような強硬措置により、何百万人もの人々が社会経済的に脆弱な立場に置かれていることは周知の通りです。多くの親が職を失い、その子供たちは教育を受ける機会を奪われているだけでなく、普通の生活を送る事さえ難しい状況です。世界中で何百万社もの企業が倒産し、憂慮すべき労働力の大きな問題を引き起こしています。各国政府は現在、これらの強硬措置から生み出された政治的な問題に直面、または直面しようとしているのです。

このような状況を受け言えることは、今こそ、基本に立ち返る時が来たということです。そのためにはまず、政府は強硬的な防止措置や移動制限等の政策をやめ、メディアは新規感染者数や新しい変異株に必要以上に固執するのをやめなければなりません。インフルエンザがそうであるように、今後もコロナウイルスの変異は続くことが予想されますし、それに対応するために新しいワクチンも開発されていくでしょう。

第二に、政府、医療専門家、メディアは、脆弱な人々、つまり、免疫力が低下している人々（若年層、成人層、高齢者層）に焦点を当て、集中的にケアしなければなりません。WHO が示しているように、「高齢者や心血管疾患、糖尿病、慢性呼吸器疾患、がんなどの基礎疾患を抱えている人は、重篤な状態になる可能性が高い」ためです。

感染者の約 80% は軽症か無症状であり、15% は酸素が必要な中等症、5% は人工呼吸器が必要な重症で、重症に達すると高確率で亡くなるというデータがあります。ただ、もう一度繰り返してお伝えしたいのは、2019 年の一年間だけで、800 万人以上の人々が虚血性心疾患で亡くなっているのに対し、COVID-19 による死亡者は 1 年 8 カ月で 440 万人にとどまっているという事実です。

第三に、マスクの着用と頻繁な手洗いが COVID-19 に対する第一の防御策であることを今一度認識し、家庭、学校、職場、その他の公的空間にいるすべての人が、この基本的なルールに従わなければなりません。特に、現行のワクチンがデルタ株に対し効力を失いつつある今、このルールの遵守は非常に重要です。

日本は人口 1 億 2600 万人中、3500 万人以上が重症化リスクの高い高齢者であるにもかかわらず、COVID-19 による死亡者数は約 1 万 5700 人と非常に少ないレベルを維持できているのは、マスクの着用や頻繁な手洗いなどが人々の生活に浸透し、徹底して行われているおかげだと思います。加えて、健康的な食生活も日本人の良好な免疫システムの獲得に貢献していると考えられます。

第四に、医師と相談した上で、自宅やホテルで療養している軽症者とその家族に抗ウイルス剤を投与することです。これにより、ウイルスを初期の段階で死滅させることができ、医療崩壊を防ぐことができます。興味深いことに、日本ではごく最近（といってもかなり遅いですが）、神奈川県が COVID-19 による自宅療養中の感染者へ、鎮痛剤や咳止めの処方を含め、また、海外ではすでに適用され、効果を上げていると言われている日本製の薬「アビガン」もこれに含めるべきでしょう。感染の急拡大を考えると、神奈川の例は全国的にも参考になると思います。

パナマでは、保健当局は自宅療養中の患者に対して、米国連邦医薬品局（FDA）や WHO が推奨していないヒドロキシクロロキンやイベルメクチンなど、いくつかの治療薬を処方してきました。その結果、感染者数はワクチン接種が開始されるよりも前に大きく減少しました。おそらく 10 年、20 年後、人々がこの COVID-19 劇場の異常な熱狂から解放され、冷静に振り返ることが出来るようになった頃、人々の不安をかき立てた“病い”の治療にどのような薬が本当に適切であったかが分かるようになるでしょう。

第五に、ウイルスの変異や人体構造の複雑さが影響し、通常はワクチンの本格的な運用にはその有効性と安全性を実証する為に長い年月が掛かるにもかかわらず、すでに私たちは「高速」で開発されたワクチンを手に行っているということです。

私はワクチンの効果を信じています。たとえデルタ株のように、それまでのウイルスで見られたほどの効果がないにしても、本当に必要としている、免疫力が低下している人々にとっては、このワクチン接種は非常に重要である（効果がある）と信じています。抗ウイルス剤を早期に摂取すれば、初期段階でウイルスを殺すことができ、その結果、入院患者数を減らし、人々の命を救うことに繋がると信じています。（専門家の公式なメッセージに反していますが）

ただ、政府は国民にワクチン接種を強制するようなことがないよう、慎重に対応しなければならないと思います。もし COVID-19 の統計が今と真逆の結果を示していたとしたら、つまり人口の 80%が死亡し、15%が死亡の危険にさらされ、5%が生き延びるという結果を示していたとしたら、ほとんどの人が予防接種を早急に受けたいと考えるでしょう。繰り返しになりますが、インフルエンザを思い出してください。これは季節性の病気であり、ワクチン接種は強制されることなく、自己判断に任せて接種が行われています。

第六に、1年半後には、COVID-19の新たな波に対処するために、病院は十分なベッドの提供や、第一線で働く医療従事者や緊急救援者の基本的な保護など、よりよい設備を整えなければなりません。驚くべきことに日本では、デルタ株が急速に蔓延した第5波により、病院のインフラが崩壊寸前の状態になっているというのです。この点について、医療ジャーナリストで現役の医師でもある森田浩之氏は、ジャパントイムズの取材に対し次のように説明しています。「医療システムへの負担は、その設計や方針に問題があるからです。日本の病院や診療所のほとんどは民間経営であり、システム全体が戦略的に連携することが非常に難しいのです。」また、日本の医療業界が抱える問題は、医療従事者の不足にも大きな原因があると言えます。

パナマでは、昨年パンデミック発生時に医療システムに大きな影響を及ぼしましたが、雪崩のように押し寄せてきたCOVID-19の患者に対応するために施設を増設し、国として備えを強化したため、デルタ型がパナマで検出された際にも大きな混乱は起きませんでした。また施設の拡充だけにとどまらず、政府は、外国人医師や看護師を雇用して医療スタッフを充実させる取り組みも行いました。

第七に、パンデミックへの対応は、保健当局だけの独占領域ではありません。CNNの政治アナリストであるファリード・ザカリア氏が指摘したように、「戦争は将軍だけに任せるべきではない、非常にデリケートな問題」なのです。(リーダーに任せっきりになるのではなく、各エリアの専門家たちが集まって多角的に問題を検証することで、様々な方向からのアプローチが問題解決の為には重要であるという意味) COVID-19やその他のパンデミックに対処するには、大統領、首相、国家元首を筆頭に、複数の政府機関による専門分野の垣根を越えた取り組みが必要です。

COVID-19を抑え込むために必要な政策(制限措置など)と、国の経済活動との健全なバランスを保つためには、このような相互理解や協働が必要不可欠なのです。私は、首相が新型コロナウイルス感染症対策担当大臣(厚生労働大臣とは異なる)を任命し、政府のすべての取り組みを統括・調整しているのを見て、日本政府の行動力を感じました。このような政府の動きは、大きな痛みを伴う制限措置やロックダウンを回避し、経済を前進させ、2021年のGDP成長率は3.8%、失業率は3%程度になると予測されます。

残念なことにパナマはその逆で、大統領は対COVID-19政策を策定するために特任の大臣を任命しましたが、その結果、昨年に長期にわたって実施されたロックダウンだけでなく、今年1月にも短期間のロックダウンが行われ、また、その他の制限的な措置がとられましたが、その影響で経済は大きなダメージを受けました。国際機関は2021年の経済成長率を9~11%程度と予測していますが、現時点で、パナマは今年第1四半期のGDPを-8.5%でスタートし、失業率も2桁で推移すると推定されています。したがって、今こそ大統領がリーダーシップを発揮し、公

民を問わず、すべての企業、団体、機関の協力を得て、国の経済再生のための統合的な計画を示すべきです。

私の考えでは、このドタバタ劇の最終的な解決策は、ワクチン接種と抗ウイルス剤を組み合わせた治療を早期に患者に施すことだと思います。米国政府は、COVID-19 やその他のパンデミックを引き起こす可能性のあるウイルスに対する抗ウイルス剤を開発するために 30 億ドルの予算計上をすでに承認しました。来年には、この病気に対してより効果的な薬が開発される可能性が高いと思います。

スペイン風邪は、1918 年 3 月から 1920 年 4 月までの 2 年間に渡って人々を苦しめ、現在のようない医学的進歩がなかった時代に、2,500 万人から 5,000 万人の命を奪ったことを忘れてはなりません。もし政府や医療専門家、メディアが過剰な制限措置などを継続し、人々に試練を与え続けるようなことがあれば、この地球上のあらゆる場所で、多くの不安定要素や社会不安が生じることになるでしょう。

私は、このパンデミックは私たち人間が母なる大地である地球に影響を与えている、より大きな病気の一症状に過ぎないと考えています。現在のペースで地球の大気、海洋、国土を汚染する有害な行為が進んでいけば、COVID-19 蔓延はすぐに「忘れ去られた過去」になってしまう、つまりそれ以上に破壊的で恐ろしい事が起こりうると考えられます。

最後になりましたが、COVID-19 に感染した人々を治療するために命を懸け、またそれによって命を落とされた最前線の医療従事者の方々に、改めて深い敬意を表したいと思います。彼らは真のヒーローであり、沢山の人の命を癒し、救った偉業は、今後も多くの人の記憶に残ることでしょう。

訳：畑田紋奈